

★ 幼穂形成期は、早生品種は平年より 3 日程度早い。 コシヒカリは平年並～やや早まる見込み

1 君津地域の生育概況

4 月 20 日頃に移植した「ふさおとめ」、「ふさこがね」の幼穂形成期は平年より 3 日程度早いです。「コシヒカリ」は平年並からやや早く幼穂形成期を迎える見込みです。

生育の前進に伴い、出穂期も早まると予測されますので、穂肥や病害虫防除等の作業が遅れないよう、水稲の生育を確認しながら余裕をもった作業計画を立ててください。

2 生育調査ほの調査結果 (6 月 15 日)

品種	年	田植え日	葉令	草丈 (cm)	茎数 (/株)	茎数 (/㎡)	単葉葉色	幼穂形成期 (☆は予測)
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	28	4/17	11.0	54	37.9	587.5	44.3	6/15
	平年	4/16	10.7	50.1	43.8	655.4	42.9	6/18
	平年比	+1	+0.3	108%	87%	90%	103%	-3
ふさこがね (君津市)	28	4/18	10.1	47	34.6	660.9	40.0	6/16
	平年	4/19	9.8	44.2	29.9	572.1	42.5	6/20
	平年比	-1	+0.3	106%	116%	116%	94%	-4
コシヒカリ (君津市)	28	4/20	10.2	52	26.4	530.6	35.0	6/23☆
	平年	4/20	9.7	49.7	31.2	590.1	38.1	6/25
	平年比	±0	+0.5	105%	85%	90%	92%	-2
コシヒカリ (一発肥料) (富津市)	28	4/25	9.9	53	36.8	599.8	41.8	6/24☆
	平年	4/21	9.5	52.5	34.8	613.8	39.0	6/24
	平年比	+4	+0.4	101%	106%	98%	107%	±0
コシヒカリ (木更津市)	28	5/1	9.7	53	33.5	558.9	44.1	6/28☆
	昨年	5/8	8.3	49.5	32.9	565.9	44.5	6/25
コシヒカリ (君津市)	28	5/1	9.0	46	40.8	575.2	41.6	-

※ 幼穂形成期は、幼穂長が 1mm となった時で、出穂の 25 日前に当たります。

※ 平年値は過去 10 年 (2006~2015 年) 平均値。ただし、①富津市のコシヒカリ一発肥料のほ場は過去 9 年 (2007~2015 年) 平均値、②木更津市のほ場は 26 年から調査を始め、君津市の 5/1 植えコシヒカリのほ場は 28 年から調査を始めたため、平年値はなし。

- 農業事務所より郵便で配信している方へお願い -

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたは FAX に切り替えを進めています。
電子メール・FAX をお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 青木 y.aoki31@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299 (電話)

3 これからの管理のポイント

①幼穂を確認したら湛水管理を始めましょう

中干しから出穂後の水管理は以下のとおりですが、特に「2」は自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために必要な技術です。安全な米作りのために注意して管理しましょう。

1 中干しは幼穂形成期に入ったら終了し、以降、出穂 3 週間前までは間断かんがい

2 出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までは湛水管理

(幼穂を確認したら、この期間は田面が露出しないように管理する。また、基肥一発肥料を使用している場合も忘れずに湛水する)

3 出穂 2 週間後から出穂 25 日後までは間断かんがい

②冷温障害に注意

早生品種は6月 24 日頃から冷害危険期を迎えると予測され、この時期に日平均気温 20℃以下の低温が持続すると、障害型冷害の危険があります。

そこで、低温の場合は深水管理（幼穂形成期から 10 日間は 10cm、冷害危険期である幼穂形成期の 10 日後から 5 日間は 20cm）で保温しましょう。

○品種別の幼穂形成期と冷害危険期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期	冷害危険期予測※	出穂期予測
ふさおとめ	4月 20日	6月 14日	6月 24日頃から	7月 9日
ふさこがね	4月 20日	6月 15日	6月 25日頃から	7月 10日
コシヒカリ	4月 20日	6月 23日	7月 3日頃から	7月 18日
	5月 1日	6月 30日	7月 10日頃から	7月 22日

※ 冷害危険期は予測日から 5 日間。

③「コシヒカリ」の穂肥

「コシヒカリ」は「ふさおとめ」や「ふさこがね」と比べ倒伏しやすいので、穂肥は幼穂形成期の葉色、茎数及び草丈から総合的に診断し、慎重に施用しましょう。

幼穂形成期における生育量が適正範囲内であれば、出穂前約 18 日に当たる幼穂長 1cm の時に窒素成分で 3kg/10a 程度を施用します。下表を参考に生育診断を行い、穂肥を調節します。

また、「コシヒカリ」の目標とする生育量は以下のとおりです。

幼穂形成期の目標とする水稻の姿

品種	草丈 (cm)	茎数※ (本/株)	茎数※ (本/m ²)	群落葉色 ※※
コシヒカリ	70 以下	23~30	430~560	3.5~4.0

※坪 60 株植
※※カラースケール
値による。

○幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥、倒伏軽減剤の要否判定

生育量(群落葉色× m ² 当たり茎数の値)	少 (2,000 以下)	適正 (2,000~2,500)	多 (目安として 2,500 以上)	
	70cm 未満		75cm 未満	75cm 以上
対策	穂肥の増量、 または時期を 2~3 日早める	出穂前 18 日に 窒素成分で 3kg/10a を施用	穂肥の減量(窒素 成分で 1~2kg /10a)、または 時期を遅らせる	穂肥は施用せず 倒伏軽減剤のみ 施用する

※ 群落葉色は、葉色票（富士葉色カラースケール）での葉色値。

※ 次号は「7月 1 日頃」発行予定